

2026年の12号機は古川ももの木保育園に設置

きらきら発電の新年1月の役員会で2026年のきらきら12号機を、社会福祉法人宮城厚生福祉会所属の古川ももの木保育園に設置することを確認しました。規模はPCS9.9kw・パネル15kwで、FIT(固定価格買取制度)を利用する予定です。蒲生6号機と同じ規模ですが、ももの木保育園は高圧電力仕様なので、総経費を350万円と想定。昨年亡くなられた小河原武氏(次号で紹介)の寄付金100万円にプラスしてきらきら発電が100万円を負担、残りの150万円を新たな寄付金でまかなう計画を立てています。3月から寄付金応募を開始する予定ですが、既に8名の方から17万円の協力(約束)をいただいています。黒川郡大和町のウサミプロジェクトに見積もりを依頼中です。写真は古川ももの木保育園の玄関と全景(後ろに民主病院)です。



きらきら2025年度経営は三重苦予想！

通信機更新・保険料倍化・出力抑制強化で、市民発電は火の車

2022年に始まった出力抑制ですが、4年目の2025年度中に、「通信機を3Gから5Gに取り換えることが総務省によって義務化」され、115万円の支出が発生します。さらに昨年まで年間56万円だった保険料が近年の水害の増加で107万円と倍化します。この2つだけで156万円の支出増となります。それに加えて、毎年強化されてきた出力抑制が2025年は原発再稼働によりさらなる増強が予想されます。九州電力管内の動きから、事務局の広幡は昨年度の3倍40万円程度に膨れ上がると予想しています。支出増156万円に収入減27万円。これらに対応できる予算作りが求められます。

こんな経営困難を知ってか、太陽光発電買取業者が毎月電話やメールで「売ってください」のラブコール。それにもめげず、市民発電所を守り発展させるため、きらきらニュースを毎月会員に届け、皆さんの笑顔に励まされている次第です。事務局、広幡の実感です。(文責=広幡)

きらきら10周年記念事業で映像化検討

2025年4月、NPO法人きらきら発電は結成10年を迎えます。10周年記念事業として、10年の歩みを映像化し、DVD作成と映像のホームページへの貼り付けを行う予定です。

きらきら発電の会員・準会員は現在220名です。10年間に12名の方が亡くなられました。それでも毎年新しい会員が参加してくださり、きらきら発電の大きな力になっています。

発電所は10年間で10か所。今後も1年に1か所を目標に、皆様の協力を得ながら、前に進んでいきたいと考えます。これからもお互いに、健康第一で毎日を過ごしましょう。

きらきら発電・市民共同発電所 ニュース

2025年3月

第126号

〒981-3215 仙台市泉区

北中山3丁目17-12

070(2010)3777

HP kirakirahatuden.com/

hirohata3888@outlook.jp

きらきら発電10年の歩み(5)

東北の先進地に学ぶ(2)

風力発電 広幡 文

次は風力発電所。大型風力発電の見学は、2015年旅行会の福島郡山布



引高原発電所見学(右写真)に始まり、2016年旅行会の山形庄内発電所見学、2017年岩手県葛巻発電所と3年続きました。どこも山林伐採はされておらず、2018年に泉病院友の会企画で再度訪れた庄内で、田んぼの中にすくと立つ風力発電の下で、田んぼの稲の根をついばむ白鳥の姿が忘れられません。

庄内町は竹下内閣が提唱した1億円地域おこしを資本に風力発電を導入。その後も地元資本の活用で風力を増やしてきました。岩手は牛の放牧地に建設され、福島県郡山布引高原はダイコンや白菜などの高原野菜の産地。森林伐採をせず、緑の大地を守りながらの風力発電です。

宮城の大型風力発電見学は2018年の旅行会で行った気仙沼市民の森風力発電所。市の公園敷地内に公園駐車場を作った地元業者が建てた風車で、2300kw×4基=9200KWの発電能力を持っています。その時の見学で「気仙沼市民はエネルギー自給100%を目標に頑張っている」と語っていました。このように地元市民に愛されながらの風力発電の発展こそ、今後の風力の姿と実感させられました。

小風力発電も何度となく見学しています(写真は岩沼)が、経営的に成功している所は一つもありません。小風力は1千万円台で建築可能なので、きらきら発電もその導入を真剣に検討しましたが、経営的な目途が立ちませんでした。

バイオマス給湯・バイオマス発電

次はバイオマス給湯・バイオマス発電です。2016年の旅行会で最上町バイオマス給湯暖房を見学。町の役所や福祉施設などへの給湯・暖房用に木材バイオマスが運転されていました。しかも地元森林組合からの木材供給でした。残念ながら焼却灰の放射線量が高く(500Bq以上)、産廃業者に処理してもらっているとの報告で、管理が心配されました。近くにバイオマス発電所が建設中でした。今なら木材バイオマス発電が石炭火力よりCO2を排出することを知っているので反対しますが、この時はそんな知識もありませんでした。



2017年の旅行会では葛巻町での牛糞バイオマスです。メタンガスを発酵させ、そのメタンガスを暖房に活用します。残念ながら、プラントそのものが止まっていて説明だけでした。せっかく多額の国家予算が使われたのに、プラント中止ではその計画が誰のためだったのかと疑問を感じます。

葛巻町の前に訪れた紫波町では、駅前に新しい団地が作られ、住宅は集中暖房システムを採用していました。木材を利用した暖房施設です。最上町と同様の集中暖房で、非常に熱効率の良い団地作りをしていました。

2018年旅行会の気仙沼行きでは、気仙沼地域エネルギー開発株式会社運営の木材バイオマス発電所を見学しました。地元森林組合が持ち寄り材を使っての発電で、しかも資材購入に地域通貨を1/3使用していました。地域通貨は地元商店街でしか使用できない通貨なので、地元の地域おこしの起爆剤だと説明されました。しかも地元企業気仙沼商会(アポロステーション)が出資しています。地域エネルギー開発株式会社の代表は「独立心の強い気仙沼っ子はエネルギーで宮城県から独立することをめざす」と説明してくれました。

2019年旅行会で行った長井市おひさま発電所では、畜産施設での牛糞発電所(ながめやまバイオガス発電所500kw)を建設中でした。完成後の同社のブログより、2023年4月1か月の実績を紹介します。359, 522kwh発電、収入14, 222, 980円。それまではお荷物だった牛糞が、月1千万円を越す収入を生みだしています。なんとというエネルギー革命でしょう。いつか見学したい発電所です。